

授業改善 3つの強化ポイント 2017 (中学校国語編)

①児童生徒の学習意欲を高める課題の工夫

- ◆質の高い言語活動を設定し、課題解決の過程を通して言葉の力を獲得していく授業づくりをします。
- ◆常に「言語活動を通して狙いを達成した生徒の姿」を想定し、そうなるためにはどんな学習活動が必要かを考えながら単元を組み立てます。(指導事項・学習活動・評価規準の整合性)

例) 読書ポスターで「〇〇中読書甲子園」 ～人物描写に着目して読もう～『字のない葉書』

モデルのおかげで見通しと目的がはっきりした!



学習課題

「(読書ポスターを使って紹介するために、)父の人物像と筆者の父への思いを考えよう」

目的意識を高めるポイント

- ★言語活動の経験と今回の学習との繋がりが既習で身に付けた力を生徒に振り返らせ、単元の目標を意識した学習課題の設定・読書の目的の確認をする
- ★何のためにテキストを読むのかを確認する
→何が知りたくて読むのか、今回の単元で身に付く能力等は何かを確認

②考えを広げ深める対話的な学びの充実



- ◆生徒が主体的に言語活動に取り組めるよう、グループ活動では目的意識を持たせることが大切です。

①個人思考

①父の行動、態度、言葉等の描写に線を引き、そこから分かる父の人物像を付箋に書く。

留意点 ①を家庭学習でしておき、②から始めてもよい。

②③グループ交流・全体交流を通して自分の考えを広げる・深める

②どの叙述からどんな父親像がわかるかをグループ交流し、ホワイトボードに人物像をまとめる。筆者の父に対する思いについても話し合う。

叙述からなぜそう捉えたのか理由も述べさせるとともに、他者の意見との共通点・相違点も考えさせる。

③各グループから出てきたホワイトボードをもとに全体交流し、父の人物像と筆者の父に対する思いについて更に深める。

意見をどのように取り上げると生徒の思考が深まったり、新しい気づきが生れたりするか考える。

④個人思考(再構築)

④父の人物像と筆者の父に対する思いについてワークシートにまとめる。

何を、どの程度、どんな表現で書いていたら日評価なのかを具体的に持つておく。

効果的なグループ活動とするために

- ★狙いの達成に必要なかどうか吟味する。
- ★グループで話し合う価値がある課題かどうか吟味する。
- ★目的を明確にし、必要感をもたせる。
- ★協議か討論か確認する。(意見を一つのまとめるのか複数に分類するのか)

③学びを自覚し、次につなげる振り返る活動の充実

- ◆学習の達成感、学んだ内容の再確認、次時への学習の意欲と見通しに繋がります。
- ◆単元のゴールにどう結び付くのかを考えることが大切です。

読みのまとめ



父は普段は一家の主ということで自分勝手な振る舞いで家族を困らせている存在だが、実は手紙に表れているように、娘思いの愛情溢れる人物である。そんな父を筆者は、驚きつつうれしく感じており、……。

振り返り

私は父の人物像を考える時に、……から考えていたが、〇〇さんと話すことで父の言葉遣いからも……が分かった。ポスターに書く時には……という部分を引用し、キャッチコピーも……。

交流を終えて、本時の課題解決として読みを個人でまとめる。(キーワードを入れるなど条件を付けてもよい)

授業において交流する最終的な目的は、個人の思考力・判断力・表現力を深めたり高めたりすることにあります。先生がまとめたことを、ノートに書き写してはこれらの力の向上に繋がりません。



分かったことや今後に生かせそうなこと、新たな気づきや次時に考えたいこと、自分の変容等を書く。評価シート等を活用し、学びの履歴が残るような工夫も良い。

国語科の場合は、獲得した力に汎用性があるのかどうかの見極めが難しいからこそ、本時の学習内容が他のテキストを読む際にも適用できるような指導に改善していくことが求められています。